



イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：329千円

## 浜松市の中山間地域再生の可能性と課題についてのシンポジウム「2018まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」

**目的・趣旨** 船戸ゼミによる浜松の中山間地域についての調査結果や「地域連携実践演習」である「引佐耕作隊」の活動を紹介することを通じて、大学や大学生が浜松の中山間地域の再生のために果たす可能性や課題について議論する。こうして本学が浜松の中山間地域づくりに積極的に関わっていることを発信する。

**日時・場所** 平成29年4月1日から平成30年3月31日  
浜松市 天竜壬生ホール

**体制** (実施代表者) 文化政策学部 文化政策学科 准教授 船戸 修一

**共催・後援等** (共催) 浜松市

## 内容

2月6日（火曜日）午後0時30分～午後4時45分、本学と浜松市役所（市民部 市民協働・地域政策課）との共催で、天竜壬生ホールにおいて、浜松・中山間地域づくりシンポジウム「2018まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」を開催し、天竜区佐久間町のある集落における舩戸ゼミの調査結果を発表した。この発表では、集落から転出した子どもや孫の存在が実家に通っている事実を明らかにすることによって人口が減少しても集落が残る可能性を論じ、そのための地域づくりの方策を提案した。このようなシンポジウムを通じて、浜松の中山間地域の住民をエンパワーメントするとともに、本学が浜松の中山間地域への貢献姿勢をアピールした。



告知チラシ（表）



告知チラシ（裏）

## 結果・成果

これまで2回（2015年12月16日、2016年12月14日）にわたって「まちむらリレーション市民交流会議～浜松の中山間地域の可能性を考える～」を本学講堂で開催してきたが、浜松の中山間地域づくりのシンポジウムでありながら、本学まで距離があるため、現地に居住する住民の参加数が少なかった。そこで今回のシンポジウム（2018年2月6日）を中山間地域である天竜区の壬生ホールで開催することによって数多くの地元住民の参加を期待した。当日の参加者は約170名を数え、これまでのシンポジウムと異なり、地元住民の参加数が多かった。さらに、このシンポジウムは、人口が減少しても集落を残していくための希望のある地域づくりの可能性を提示することによって住民が中山間地域に住み続けるための一助となる会議であった。山間部と街中の地域と大合併し、現在、その地域同士の交流が求められる浜松市にあって、その両者をつなげていくためのシンポジウム「まちむらリレーション市民交流会議」が果たす役割は大きい。次年度も、このようなシンポジウムを本学と浜松市によって共催し、本学が浜松の中山間地域に果たす役割をアピールするだけでなく、この地域の住民へのエンパワーメントにもつなげていきたい。

